

### 高尾山 1101 第9回スキー旅行IN蔵王

井上 圭介

「面白きこともなき世を面白く」をモットーとする高尾協の面々が二月六日、機上の人となりました。日曜日に出立できるのも高尾協ならではです。なにせ空いているのでグレンデは快適、でもこれ以上少なくなるのも寂しいですね。私たちが頑張らねばと、決意を新たにしました。

目指すは強酸性の泉質で名を馳せる蔵王温泉。そこに待ち受けていたのは・・・、素晴らしい天候（昨年末から晴れた日はわずか四日、そのうちの二日が私たちの訪れていた二月六日と八日でした）と景観、蔵王のみなさんの親切な心遣いでした。もちろん、いいことばかりではありません。他人には言いたくないようなこともありました。で、登場人物名はプライバシー保護と名譽のため仮名とさせていただきます。もちろん皆様方が仮名よりご想像いただくことは自由です。

駆け出しの私にとって、参加諸先輩方々のスキー技術は驚きの連続でした。とても無雪地域のスキーヤーとは思えません。優雅にターンをきめるS田さん、ダイナミックなH田さん、豊富な海外スキーで培った安定性抜群の滑走を

みせるT島さん、微に入り細に穿ったスキー技術論を展開するM山さん、少しのアドヴァンスで見違えるように上達し学ぶことの極地を体現されたM湖さん、コース間違いで同行のメンバーを何度もグレンデ登りさせたイケイケどんだんのS本さんなど、本当に理想的なスキーヤーの皆さんでした。

そのS本さんにそそのかされ、H田さんと私の3人が蔵王名物、三八度のハードバーン「横倉の壁」に挑戦し、みごと返り討ちにあつたことなど些細なことです。ご本人「いやあ下から見たら大した坂に見えなかったけれど、行ってみたら下が見えないくらい急やったねえ」

ご本人曰く「リフトの止まるのがもう五分遅かったらみんな中吊になっちゃった、止まるのが早くてよかった」と、ごもつともなコメントをされました。

自ら「トイレの百ワット電球（無駄な明るさ）」と称する女将率いるホテル、「ル・ベール蔵王」は、食事が美味しく参加者の体重増加に貢献してくれましたし、そのフレンドリーさと親切さは抜群でした。なにせ、夕食時に盛り上がり他のグループの倍ほどの時間が経過したにもかかわらず、スタッフの方々は「早く片付けたいのにええかげんに引き上げんかい!!」との視線を私たちに気付かせないテクニクをお持ちでした。



そのS本さんの「早く山頂に行ける」から、という提案でホテルの車で一番離れた横倉グレンデに送ってもらったのですが、直前に停電でリフトが二時間ほど動かなかったことなども些細なことです。

そんな長い宴から部屋に引き上げたメンバーから突然悲鳴が!!「部屋に入れん、中へルームキーを置いて食事にきたのに鍵がかかちゅう」「オートロックでもないのに鍵をたてこんだなんて?」と、

謎は間もなくとけました。食事中に宿の方が布団を敷きに来てマスターキーで施錠していつてくれたのでした。

今回の旅行のハイライトは、八日の好天にめぐまれた山頂からのザンゲ坂・樹氷原コースの景観でした。蔵王の自然が作り出したモンスターと呼ばれる樹氷に目を奪われました。そのまま自分がモンスターになりたいと言ったメンバーがいたとかいいたか。

そんな中、H田さんの携帯電話が行方不明になりました。警察に届け、心当たりを尋ね八方手を尽くしていると九日の帰りのバスが出る二時間ほど前、山の上のグレンデのお店から連絡がありました。「モシモシ、とらのしつぽの付いた携帯ですか?」「ハイ、それです、これからその携帯にこちらから電話をします」で、確認して一件落着。すぐに宿の方が一時間掛けて取りに行ってくれ、帰りのバス停まで届けてくれました。機上の人となったH田さんの手には、しっかりと、とらのしつぽ付き携帯が握られていました。

山の上にあるH田さんの携帯に確認電話を入れたのはS本さん、発見に感激し「あった、あった確認した、僕のこの携帯から掛けたら繋がった」と、大喜びでみんなの前に差し出した手に握られていたのは・・・TVのリモコンでした。

### 家庭菜園懇談会#4

#3では、収穫したサツマイモ、大根、人参などの保存方法が話題になりました。蒸し方、切り方、乾燥の方法、その道具まで話題がつきませんでした。菜園を持たない方も、野菜の調理に興味のある方は非参加してください。

次回  
3月28日(月曜)  
午後1:40

### セルフイーユ

(ブリコ高知吉田店西)

二階にて  
ポット苗をおわけすることができ  
きる予定

- 栗カボチャ 60円
- ズッキーニ 60円
- スイートコーン 30円
- 枝豆 30円
- レタス類 20円
- ヘチマ、マーガレット、0円



### 軍艦島探訪

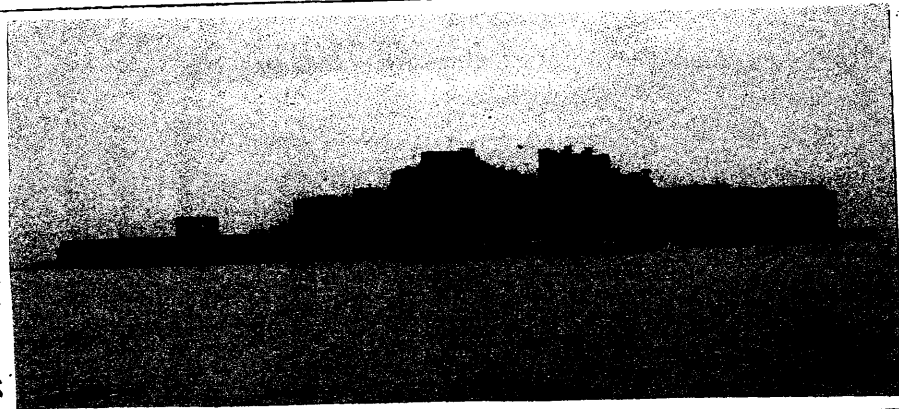
田所昌澄

小筑紫無線会の第十回親睦旅行は軍艦島上陸を主目的に長崎諫早を周遊することになり十名が参加した。我々が旅に出れば朝からビールで大騒ぎをするのが常であったが、今回は宿毛港をフェリーで深夜出発し、休憩もとらずに佐伯、長崎間を突っ走る強行軍で缶ビールを開けることもなく早朝の長崎港へ。

この旅行は昨年も計画したが連絡船の予約が取れず実現しなかった。現代の遺跡を探訪することが流行しているようで軍艦島にも見物客が押し掛けていて、連絡船は定員二百名位の小型船で長崎港から約四十分で目的の端島(軍艦島)に着く。上陸観光コースの所要時間は三時間である。尚乗船するには安全遵守の誓約書の提出が必要である。

軍艦島は小さな海底炭鉱の島で、最盛期の人口は五千人を超えていたが石炭から石油へのエネルギー革命で廃坑となり島全体が廃墟となつている。軍艦島の名前は島全体を囲む巨大なコンクリートの塀と密接して立ち並ぶ高層鉄筋アパートの外観が戦艦「土佐」に似ていることから付けられたものである。

上陸前船内では上陸時の注意が繰り返して放送された。トイレ無し、酒タバコは駄目、ハイヒールやサンダルは船内の靴に



履き替えることは納得できるが女性が日傘をさして上陸することも禁止。両手を使って安全を確保せよとのことだろう。首に掛けたカードの色で二班に分けられロープを手摺にした揺れる簡易タラップで上陸する。波が高く上陸出来ないことも度々あるようだ。



#### 追悼

中沢 尚敏さん  
二〇一〇年十二月  
逝去されました。

森田 鐵龜さん  
二〇一一年一月一日  
逝去されました。

植田 祥代さん  
二〇一一年一月十七日  
逝去されました。

謹んでお悔やみ  
申しあげます

見学は班別にガイドとともに見学用道路を移動し途中三ヶ所の広場で新旧の写真を比較しながら島の歴史や生活について説明がある。作業員は垂直六百メートルの堅穴から気温三十度湿度九十五パーセントの地下へ高速エレベーターで荷物のように運ばれ、作業が終われば海水風呂に作業着ごと入り、あがり湯だけが真水だったという。軍艦島では強制連行されてきた朝鮮人も働かされている。彼らにとっては脱出不可能な監獄島と呼ぶべき島だった。軍艦島は日本の近代化産業遺産として世界遺産に登録されようとしている。遺跡なのか、廃墟なのか、いずれにしても落盤やガス爆発の恐怖と闘いながら日本の近代化に貢献した労働者に思いを馳せる場所だろう。島を訪れた時はチリ銅山の落盤事故の救出作業が終わった直後で炭鉱労働者の過酷な実態をしみじみと感じた。

これから行く方は、波の穏やかな季節に連絡船を予約することを勧めます。

### 俳句

十二月十八日 土曜  
高知城周辺

合田青幹  
虎彦の一併号の藪柑子  
飛石の一つ一つにある冬日  
田所たねを  
孕寿過ぎ白寿目指すと賀状書く  
朝日受け伸び伸び伸びる冬野菜  
吉本伸秋  
大柵枯葉鏝ひ庭統ぶる  
中内英明  
筒井筒古りゆく旧居藪柑子

### 雑感



エコ料理  
山本晶子

活力に満ちし教え子の同窓会  
それぞれの憂さ一時忘る  
茶がら煮て食ふれば香たちてく  
テレビで見たるエコ料理なり  
午前一時近くなりても新聞を読  
み終り得ぬ吾を哀れむ

四姉妹  
叶岡淑子

積年の蔵書またもや捨てられず  
おおかた棚に戻しておりぬ  
四姉妹それぞれの老い支えあう  
来し方を見つわが先輩の  
秋水の刑死百年なお今も冤罪  
絶えぬこの国の闇

### 川柳

溪流の抄⑥  
小澤 幸泉

七十年橋のたもとに  
たどりつき  
空白のこころ奏でる  
白い風  
涙拭いて明日の窓を  
開け放つ  
一本の白杖わが人生を  
ふりかえる  
散らされた平和のかけら  
また集め  
冬ひとつ私に呉れた  
希望の灯  
義母来る故里のぐち  
乗せてくる  
雑然と生きて跡なく  
ふりかえる  
ナルドの壺に罪の涙を  
溢れさせ  
生きることなほ遙かなり  
神の杖

### 主な活動と参加(活動日誌)

- 十二月 三十一日 故中沢尚敏 告別式
- 一月 六日 2011年度高退協/山の会 初歩き・新年会
- 七日 故森田鐵龜 告別式
- 十一日 第九回事務局会議
- 十一日 革新懇代表世話人会
- 十四日 県高連連幹事会
- 十九日・二十日 県退教協 第二十一回交流集会
- 二十日 消費税学習講演会
- 二十一日 故植田祥代 告別式
- 二十一日 2.11実行委員会
- 二十六日 2.15実行委員会
- 二十七日 憲法会議役員会
- 二十九日 映画「蟹工船」上映
- 二月 一日 第十回事務局会議
- 三日 高知憲法会議総会
- 六日 第十回高退協スキー 研修(九日)
- 八日 革新懇代表世話人会
- 十一日 2.11「建国記念の日」に反対するつどい
- 十三日 シンポジウム「県民・市民の声を図書館づくりに」
- 十五日 第21回後期高齢者医療制度即時廃止を求めるとの昼休み集会
- 十八日 県高連連幹事会
- 二十五日 「反貧困・地域を守る高知県民集会」
- 松山和雄さんの「三十五の思い出」は記事多数のため今回は休ませていただきます。